

【中国語】

辞書案内

ほとんどの1年生用教科書は、名ばかり大学生でも学習できるように、全て総ピンイン・語釈付き、辞書なしで学習できるように作られています。それで間に合わせているようでは何語でもモノになりません。そもそも一橋の中国語は秋には一般の1年生教科書を終わらせて先に進みますから、辞書なしで済ますことは絶対にできません。新しく学ぶ言語です。はやいうちから辞書に親しみましょう。とかく日本人は、同じ漢字だから意味も同じだろうと、つつい辞書を引く手間を惜しみがちですが、そこに落とし穴があります。中国語の学習でこそ、意識してこまめに辞書を引かなければなりません。

■紙の辞書と電子機器辞書

ところで、情報機器の発達した現在、紙の辞書を使わず電子辞書だけで、中高そして大学受験も乗りきってめでたく合格してしまう学生も珍しくありません。加えて、スマホでも手軽に、授業中でさえ辞書が引けてしまう昨今です。ただし、スマホアプリやサイトの場合、玉石混淆で中には不正確なものもあり、注意が必要です。やはり信頼できる紙媒体の辞書を購入し、その上で、電子の辞書(電子辞書/ web・スマホの辞書)で二刀流に、というのがお勧めです。

漢字は表音文字ではありません。“中国”という漢字をいくら眺めていても、中国語で何と読むのかは分かりません。中国語学習では、先ずこの漢字の発音を調べるのに辞書は必須アイテムです。紙の辞書では漢和辞典と同じように、何という部首の何画というのを索引で調べて、当該ページを開いてやっと発音分かるという具合ですが、電子機器なら指やスタイラスペンで調べる字を画面に書けば、あるいはコピーすれば、たちどころに発音を表示、親切な場合には音声再生までしてくれます。電子機器を使わない手はありません。また、紙の辞書では漢字が分からないと辞書が引けませんが、電子機器辞書ではピンインという中国式ローマ字が分かれば引くことができます。正確に発音できれば発音から引くことも出来ます。ヒアリング練習の新出単語でも、聴き取りや復唱ができれば辞書が引けるので、やはり必須の道具です。

しかし、便利な電子機器辞書にも短所があります。単語の意味だけが端的に表示されて、例文が同時表示されないこと。最初の語義だけ見て、他を見ようとしなくなること。ピンポイント情報なので、関連情報や語彙が自然と目に入ることがないなどで、これは何語の電子辞書でも同じです。一方、紙の辞書では例文をいくつも同時に見られるし、開架式図書館で目的の本の周囲にある本にも手が伸びるように、周囲の語彙にも目が行きます。昔から言われている「辞書を読む」ことができます。英語学習の経験で分かっているとは思いますが、両者の長所短所を併せて活用して下さい。

【電子機器辞書=電子辞書・スマホ】

専用機である電子辞書は、最近は何んでもできるスマホに押されて影が薄いですが、専用機ゆえ、じっくり勉強するにはキーも押しやすいしストレスなく使えます。複数辞書一括検索などは、大変使い勝手のよいものです。日本メーカー製の中国語辞書を搭載した電子辞書は数社から発売されています。いずれも次項のオススメ紙媒体辞書を搭載していますので基本的にはどれを選んでもまちがいはありません。web上の中国語電子辞書の比較サイトやレビューを詳しく検討し、自分のニーズ(英語や他の搭載辞書、機能や使い勝手etc.)を考えて購入してください。中日・日中だけでなく、中中の現代漢語詞典や複数の中日辞典、比較的大きい中日辞典を搭載している機種もあります。

スマホの場合、有料のものと無料のものがあります。有料のものは次項の紙の辞書をアプリ化して自分のスマホにインストールするものが主流です。電子辞書をスマホに組み込むようなものです。無料のものは通信して検索するもの。ただ玉石混交で、初学者をミスリードする記述もみうけられます。信頼のおける紙の辞書との併用が望ましく、そのうちに優劣も分かってきます。各アプリやサイトで一長一短がありますから、複数を使い分けるのも方法です。無料ですから、試して駄目なら削除すればいいだけです。新語に強いのもスマホ辞書の利点です。

【紙の辞書】

中国語の辞典は、英・独・仏に比べて高く、中辞典でも6～8千円します。安価なものには、初学用や薄いビジネス用もありますが、大多数のみなさんは、ジュニアクラウンやデイリーコンサイスだけで英語の勉強をしてきたのではないでしょう。しっかりとした中辞典を購入して下さい。入門用の辞典にはそれなりの配慮があり、一概に否定はできませんが、中国語の性質上、辞書にはある程度の語彙数が必要です。語彙数の少ない入門用辞書はすぐ使えなくなります。また、驚異的に社会が変化している中国です。言葉もどんどん変化します。編集時期の新しい辞書を使うのが原則ですが、スマホなどに押されて売れ行き不振の紙の辞書は更新が滞っているようで、新語は電子媒体に頼るしかなさそうです。

【中日辞典】

- ① 講談社『中日辞典』第3版 2010年
- ② 小学館『中日辞典』第3版 2016年
- ③ 三省堂『超級クラウン中日辞典』2008年
- ④ 東方書店『東方中国語辞典』2004年
- ⑤ 白水社『中国語辞典』2002年
- ⑥ 大修館書店『中日大辞典』第3版 2010年

①～⑤がいわゆる英語の学習用中辞典に相当するものです。①②③④は、類義語や語義の説明、用例の提示、豊富な写真やイラストなどの点で初学者向け配慮もよく行き届いています。①は、付属のCD-ROMでまるまる辞書1冊をwindowsパソコンにインストールでき、全文検索が出来ます。この辞書のCD-ROM版と称するパッケージも販売されていますが、付属のものと同じなので、重複購入しないように。②は2016年11月に第3版が出版され、最新ということもあり一番のオススメです。③には「超級」を冠さない『クラウン中日辞典』がありますが、これは語彙が少ないので勧めません。⑥は中上級向けで、一冊本としては今のところ最大の語彙数を持っており、やや古い語彙も含んでいて、幅広く文章を読むには便利です。

【日中辞典】

- ⑦ 講談社『日中辞典』2006年
- ⑧ 小学館『日中辞典』第3版 2015年
- ⑨ 三省堂『クラウン日中辞典』2010年
- ⑩ 岩波書店『岩波日中辞典』第2版 2001年

一押しは①の姉妹編の⑦です。最大の特徴は①同様、電子データを納めたCD-ROMが附属し、パソコンがあれば、例文など全文の検索ができることです。また類義語のニュアンスの解説に詳しく、書くときには大いに参考になります。読んでいても飽きません。

⑧⑨はそれぞれ②③の姉妹編です。作文をする上で、初学者向けの配慮もあります。⑧は新語も多く収録されています。⑩は本学折敷瀬名誉教授の労作で、語彙数、例文数は劣りますが、単なる単語の置き換えでなく、生きた中国語の表現へと移し換えられています。

【中中辞典】

- ⑪ 商務印書館『現代漢語詞典』第7版 2016年

初級の段階をすぎたら、ぜひ中中辞典を使って下さい。ひとつひとつのことばのニュアンスをつかむには、日本語の訳語よりも中国語で書かれた説明を読むのが役に立ちます。

⑪は中国国内の定番辞書で、現在第7版です。